



▲「ヤッター、できあがりだー」



▲野焼き前、どんな土器ができるか楽しみ



▲できあがった縄文式土器を手に子どもたちは大満足

縄文式土器 づくりを体験

教育委員会では、第2・第4土曜日などを利用し、社会体験・自然体験を通して、豊かな感性やたくましさを育てようと、村内の小学校中・高学年を対象に「ふるさと子ども塾（塾生41名）」を組織しています。

10月25日には、6月にもや焼陶芸クラブの協力を得て、みんなで作った縄文式土器を乾くのを待って野焼きしました。参加した子ども達は、初めての体験に感激し、早くも「来年もやりたい」と意欲を見せていました。

これまでの功労をたたえ

平成11年度 褒賞受賞式

5名が受賞



▲受賞後の記念撮影

褒賞式では、高松村長の式辞の後、受賞者一人ひとりに賞状を手渡し、これまでの功績をたたえました。
続いて、受賞者を代表して、古川長光さんが「これまでの経験をいかし今後も、より一層努

文化の日にあたる十一月三日、青森あすなろホールで平成十一年度褒賞受賞式が行われ、公共の福祉増進へ功労があつた五名が表彰されました。



▲受賞者1人ひとりに表彰状が手渡されました



▲受賞者を代表して古川長光さんが謝辞を述べる

力し地域に貢献したい」と謝辞を述べ、式典終了後は、それぞれの分野での、これまでの活動を奮い合っていました。

受賞おめでとうのびじゅらまつ

平成十一年度 褒賞受賞者 (順不同)

古川 長光さん
ちようこう
(相因)



昭和三十八年一月当村の派立納税貯蓄組合設立時より平成八年三月までの間に十五年間会計昭和四十七年二月より組合長に推され納税意識の高揚に努め、当組合の収納率は組合設立時より完納を達成している。
また、昭和四十七年四月より七年間、市浦村納税貯蓄組合連合会理事、さらに昭和五十四年四月より現在まで二十年間連合会会長を歴任し、市浦村全体の収納率向上に貢献し、その功績は高く評価されている。

なお、十二月一日、納税功勞により県知事から青森県褒賞を受賞。

奈良 義美さん
なら よしみ
(太田)



昭和二十三年より、木炭組合の設立に参画し、農業を営み農業共済評議員二十三年間、また、福祉活動におかれては、日本赤十字奉仕団活動歴三十三年、村社会福祉協議会設立時よりの評議員または監事として二十六年、民生児童委員歴十五年間と水きに亘り村政の発展、福祉の向上に貢献されている。

昭和五十八年三月以来十六年
間有余にわたり、市浦村農業委



おかもと かねお
岡本兼四郎さん
(相内)

昭和三十七年以来三十六年有
余、市浦村職員としてその職務
に奨励し、常に研鑽に努め、地
方自治の振興に貢献されている。



まつじ ゆきお
松江 幸勝さん
(十三)



あおやま なおき
青山 喬さん
(太田)

昭和三十七年四月十三日、市
浦村消防団員を拝命以来三十
七年の水きにわたり、消防人と
して有事災害時において、自ら
率先して出動し、異敢なる消防
活動を展開し、幾多の災害の被害を最小限に食い止め、地域の財産、生命等民生の安定に努めており、その功績は誠に大きい。
現在は、団本部分団長として、
永年の豊かな知識と経験を基に
各分団の指揮及び団員の育成に
尽力している。

員会委員としての役割や重要性
を認識し、農業経営の合理化や
農地の有効利用により、地域農
業者の所得向上を図るなど、地域
の農業振興に貢献されている。

助成団体に相内青年団が選ばれる

第七回 ろうきん一億円基金

青森県内で、「元気ふるさと
づくり」のため、地道な活動を
支援している「ろうきん一億円
基金(青森県労働金庫主催)」助
成団体に、相内青年団(秋田谷
兼仁団長)が選ばれました。
長年の虫送り主催などの地道
な活動が高く評価されたもので、
相内青年団には、活動助成金と
して二十万円が贈られることに
なっています。

青森県内では、県内から七十四団体の
応募があり、十五団体が助成団
体に選ばれました。その内の一
団体に選ばれたことで秋田谷団
長は「青年団の先輩方、小学校
や各種団体など地域ぐるみでの
協力があったからこそ助成団体に選
ばれたと思。虫送りの歴史・
伝統が評価されうれしい。この
賞を励みに今後も地域の郷土芸
能である虫送りを活気付けてい
きたい。助成金では太鼓を購入

二十一世紀の青森県農業をリードする 明日を拓く青森県農業賞

三浦俊一さん(相内)に奨励賞

十一月十一日青森市において、
明日を拓く青森県農業賞の表彰
式が行われ、三浦俊一さんが個
別経営部門で奨励賞を受賞、表
彰されました。

三浦さんは、気象条件の厳し
い米主体の市浦村において、ト
マトづくりをいち早く導入し、
産地化を実現した功績と、マル
ハナパチ採用の新技术や大型ハ
ウスへの更新など、管理面で着
実に経営改善を図っている点が
高く評価されたものです。

農業賞は、地域の立地特性を
生かし創意工夫しながら、二十
一世紀の青森県農業をリードし
ていく新技术の導入などに取組
んでいる農業者に贈られるもの
です。

二人で出席、三浦さんは、
「この受賞を励みに今後も地域



▲ろうきん一億円基金助成団体に
選ばれた相内青年団のみなさん



▶青森県農業賞奨励賞を受賞
(三浦さん夫妻)

農業振興のための取組みをして
いきたい」と受賞の喜びをかみ
しめていました。

したい」と話していました。
なお、市浦村からのろうきん
一億円基金の助成団体は、平成
八年の演劇サークル「阿蘇部隊」
に次いで二団体目になります。

安全で衛生的な排水処理を実現 十三地区漁業集落排水施設 「水の館」が完成



▲完成した十三地区漁業集落排水施設「水の館」

十三地区漁業集落排水施設「水の館」が完成。十一月十八日、竣工式が行われた。
この施設は、平成七年度から工事を着手、約五年の歳月と十五億二千九百万円の工事費を投じて完成したもので、施設内にはセラミック触媒型脱臭装置などの最新型浄化機器が備えられています。今後十三地区の生活排水は、「水の館」で処理されることになり、村の内水面漁業の

振興に大きな役割を果たすことが期待されています。

竣工式では、施設の完成を祝う村内外から、工事関係者ら八十名が参列。高松村長、浜田議会議長らが玉串をささげた後、テープカットやくす玉が開か



▶玉串をささげる高松村長

施設の完成を祝いました。引き続きコミュニケーションセンターで行われた式典では、高松村長が「中世の国際港湾都市・十三漆遺跡が地域内にあることから自然環境や、景観形成に配慮した。前潟の浄化と生活環境の



▲祝砲を合図にテープカット

改善が図られ、漁場開発の振興に大いに役立つものと確信している。将来は全村に普及していきたい。」とあいさつ。日常生活に直結した生活排水の問題を解決するためにも、「水の館」への期待が高まります。



▶くす玉が開かれました

電気設備は大丈夫ですか

一人暮らし高齢者宅を訪問

東北電力・中里サービスセンター

電気設備が適正に使われているかなどの点検を行う奉仕事業、一人暮らし高齢者宅電気設備点検訪問が十一月十七日東北電力・中里サービスセンター職員によって行われました。

この事業は、高齢者に対する電気の適正使用の普及を目的に

行われているもので、今回は村内十一戸の一人暮らし高齢者宅を訪問、漏電の点検、蛍光灯の点検掃除などの奉仕作業を行いました。

訪問宅では、「男手がいなく、普段高いところにある蛍光灯はなかなか掃除できない。今回掃

除してもらって大変助かった」と感謝していました。

東北電力では「地域で電力として、今後この事業を継続していきたい」としています。



▶漏電の点検を行う東北電力職員

地域おこし“めん類”に

麺めんサミット in 十三湖

4,000人



▲会場は人・人・人…

この日の人気は、第三部の試食会。村特産の「しじみラーメン」を初めとする県内十七町村の地域おこし、めん類のコーナーが並ぶとあって会場となった海洋センター体育館は、順番待ちの行列ができるほどの大盛況。

十月十七日コミュニティセンターにおいて、むら・まち・恋・麺めんサミット in 十三湖が開かれました。
サミットは、三部構成で行われ、第一部は高松村長らが出演し、「地域活性化」への取り組みについて、をテーマにした対談が、第二部は、青森県特産品センター中村元彦理事長が進行役を務める「麺類での地域おこし、今後の展開」をテーマにしたシンポジウムが行われ、麺類を通しての村おこし、町おこしの展望などについて話し合われました。



▲試食する来場者



▲地元「しじみラーメン」も大人気



▲順番待ちができるほど大盛況

約四千人の来場者は、思い思いのラーメンなどを一杯二百円で試食し、各町村の素材をいかしためん類をおいしそうに味わっています。

また、船の荷揚げ場と推測される場所での発掘調査では、船着場で使用された細い杭などが出土していることから、「大型の船が荷揚げ場に接岸するのは困難であったのでは。交易品は大型船から小船に積替えして

運び、積み降していたことが推測できる」と説明がありました。その後、参加者は実際の発掘現場を見学するなどして、十三湊遺跡に対する関係者の期待を明らかにするために、来年度以降の発掘調査に期待が

十月三日、十三小学校において、十三湊遺跡発掘調査現地説明会が開かれました。
説明会には、実際の発掘現場の見学や出土品などに見学できるとあって、北海道をはじめ県内外から七十名が現地を訪れました。

十三湊発掘調査 現地説明会開催



▲家臣団屋敷の出土品



▲現地での説明

来年度以降の発掘調査に期待が

唄と民謡と踊りのコンサート

『十三湖の女』制作発表会開催

十月二十四日コミュニティセンターで、約三百人の入場者を集め、磯松出身の伊南善仁さん、「十三湖の女」を唄う浅野麻里子さん、「望郷十三の砂山」を唄う立花竜一さんの三人の歌手と「しゅうら音頭」の振り付けや「十三湖の女」を作詞した四国民舞輪の会総本部長宮川和扇さんが出演し、「十三湖の女」と「しゅうら音頭」の制作発表会が行われました。

村からは、十三の砂山保存会の皆さん十二人が出演し「十三の砂山」踊りを披露、発表会に華を添えました。
十三湖の女は、宮川さん自身が民舞和扇流三十五周年という区切を迎えるにあたって、市浦村への想いと、市浦村と輪の会



▲宮川和扇さんの舞い

との文化交流の永遠に願いを込め、「少しでも市浦村のお役に立ちたい」と作詞した唄で「ぜひ市浦村の皆さんに唄と踊りを披露したい」ということで今回実現したものです。

コンサートの開演にあたり、高松村長が「村の応援歌を作り続けている宮川先生に感謝いたします」とあいさつ、これまでの宮川さんの功績を讃え、村からは、感謝状が贈られました。コンサートは第一部で浅野麻里子さんが「十三湖の女」などを、第二部では、立花竜一さんが「望郷十三の砂山」などを、



▶右から、伊南さん、立花さん、「十三湖の女」を唄う浅野さん

第三部は伊南善仁と唄なかと題し、地元歌手である伊南さんが「片恋酒」ほか六曲を熱唱、会場からは、盛んな拍手が送られていました。

最後は、入場者と出演者がいっしょになって、しゅうら音頭で



▲出演者に相内小学校のみなさんから花束が贈られました

ファイナレ、唄と民謡と踊りのコンサートは、最後まで盛り上がりつつありました。

この事業は原子燃料サイクル事業推進特別対策事業の助成を受けて実施しました。

自然に親しみながら...
村民健康ウォーク開催

秋晴れのなか村民八十人参加

近年、健康増進の一環として注目を浴びているウォーキング。十月十日大沼公園周辺で村民健康ウォークが開かれ、八十人の参加者は秋晴れの中、五キロメートルのウォーキングを楽しみ、さわやかな汗を流しました。

ナカカマド・八重桜など...
百七十本を植樹

森と川と海の絆推進事業植樹祭

緑と水の源である森は川を通じて海とつながっている。十月十八日、平成十一年度青森県森と川と海の絆推進事業による植樹祭が行われ、高松村長はじめ玉瓶県水産部長、漁業関係者ら七十人が参加し露草産苑に隣接する敷地二アールに、ナカカマドなど五種類の樹木百七十本が植林されました。

今回の植林は美しい自然や豊かな海を守るために行われる植林活動に対する理解と普及啓発を目的に行われたもので、科学的にも森からしみ出した窒素、リン酸、カリ、鉄分などの栄養分を豊富に含んだ水は、植物ブ



▲関係者が170本を植樹

ランクtonを大量に発生させ、魚介類の成育に大きく寄与していることがわかっています。この日は、少し肌寒だったものの植林作業に精を出した参加者は心地よい汗を流していました。



▲空き缶などを拾いながらのウォーキング

な歓声が上がると、参加者たちは楽しいひとときを過ごしていました。

火災のない市浦村を願って 秋の火災予防運動パレード

十月二十一日、秋の火災予防運動にあわせアトム幼年消防クラブ、太田小少年消防クラブ、市浦婦人防火クラブ、消防団、消防署の五者合同の火災予防パレードが行われました。

当日は、一日消防団長を白川静子さん(相内)、一日消防署長を平野美恵子さん(相内)が務め、村内を二コースに分けての車両パレードや相内地区での歩行パレードを行い、火災予防を呼びかけました。



▲1日消防団長の白川さんと、1日消防署長の平野さんが高松村長を訪問

パレード終了後は、役場前において、太田小少年消防クラブの鼓笛演奏とアトム幼年消防クラブによる「火の用心」の呼びかけが行われ、最後に参加者を代表して大沢静子さん、藍加ち

やん親子(桂川)が「火事のないう市浦村にします」と誓いの言葉を述べました。
冬が近づくにつれ、ストーブを使用する機会が多くなります。火の取り扱いには十分注意しましょう。



▲誓いの言葉を述べる大沢さん親子



▲火災のない市浦村を願って村内をパレード

チャンピオンに「たきひろ二番」 第六回 市浦村子牛品評会

十月二十一日実施肉用牛育成センターで、子牛品評会が行われました。

この品評会は、村内畜産農家の飼育意欲の高揚と飼育管理技術の向上推進など、優良女子牛の育成を目指すことを目的に、毎年行われているもので、今回で六回目となります。

品評会には、村内十七戸の畜産農家から、二十五頭の子牛が出品され、各部別別に審査が行われました。

審査の結果、相澤浩さん(磯松)が出品した「たきひろ二番」がチャンピオンに選ばれました。なお、各部別別の審査結果は



▲厳重な審査が行われた子牛品評会

次のとおりです。

(内は出品者、地区名)

▼チャンピオン

たきひろ二番(相澤浩)

▼めすの部

優秀賞

よしふく(三上剛、脇元)

かつゆき(相澤浩)
優良賞

かねまる(相澤浩)
たけふじ二番(三上剛)

▼去勢の部

優秀賞

金次郎(成田照、脇元)

若杉(工藤義美、磯松)

優良賞

和雪(葛西武和、脇元)

上鶴(三和幸夫、脇元)

健康増進施設(タラソテラピー) 建設工事の安全を祈願

〓二〇〇一年春オープンを目指し工事に着手〓

村が計画を進めている健康増進施設(タラソテラピー)——十月二十五日健康増進施設建設の安全祈願祭が建設予定地(磯松地区)で執り行われました。



▲関係者が参列し安全を祈願

祈願祭には、高松村長をはじめ、関係者約四十人が出席し施設の早期完成と工事期間中の無事故を祈願し、くわ入れや玉串がさげられ、健康増進施設建設がいよいよスタートしました。



▶くわ入れを行う高松村長

スポーツの話題

十三小学校 借しくも準優勝 第24回 トリム野球大会

相内小学校は第三位

九月二十五、二十六日の二日間、にわたって、トリム野球大会が、山村広場野球場を主会場に行われました。

この大会は、五所川原市以北の五市町村から、小学校九校、中学校五校が参加しており、今回で二十四回目の開催となります。

当日は、台風の影響で、グラウンドコンディションも悪く開催が危ぶまれましたが、朝早くから大会関係者が修復作業にあたり、なんとか開催にこぎつけました。

開会式では、三和将大選手(相内小六年)が「トリム野球の精神」のつとめ、正々堂々と「します」と力強く選手宣誓を行い、熱い戦いが繰り広げられました。

結果は金木小学校、金木南中学校が優勝しました。

村内各小・中学校の主な結果は次のとおりです。

〈小学校の部〉

▼二回戦

- 三塁打 近藤祥一(十)
- 二塁打 近藤祥一、小倉(十)
- 三塁打 近藤祥一(十)
- 二塁打 小倉、秋元(十)
- ▼決勝
- 十三小 10012004
- 金木小 201002x5
- (十) 近藤祥一、小倉
- (金) 内海、吉屋、室屋
- 三塁打 吉屋(金)
- 二塁打 近藤祥一、小倉(十)



▲借しくも準優勝の十三小学校

第2回つがるロマンカップ争奪小学生バレーボール選抜大会 相内小バレーボール部が準優勝(新人の部)

相内小学校バレーボール部が第二回つがるロマンカップ争奪小学生バレーボール選抜大会新人の部において、準優勝の成績をおさめました。また、同大会六年生の部では十三小学校が第三位の成績をおさめました。大会結果は次のとおりです。

▼予選リーグ(六年生の部)
●Aブロック

- 相内小 2-0 下前小
- 相内小 0-2 繁田小

相内小は交流リーグへ

- ※交流リーグ(順位決定戦)
- 相内小 2-1 修道小
- 相内小 2-1 小泊小

(相内小は第四位)

〈中学校の部〉

▼準決勝

- 市浦中 10000023
- 中里中 00011002

(中) 近藤一新

(市) 鳴海好一、松橋

●三塁打 鳴海(市)

〈個人賞〉

- 敢闘賞 小倉勇斗(十三小)
- 優秀選手賞 近藤祥平(十三小)
- 三和将大(相内小)
- 鳴海好秀(市浦中)



▲優勝報告に役場を訪れた市浦中バレー部

優勝報告 市浦中学校バレーボール部

市浦中学校バレーボール部が北五中学校新入体育大会において、優勝をかぎり、このたび役場に優勝報告に訪れました。大会では、一セットも落とさずとなく圧倒的な強さをみせての優勝で県大会出場を決めました。

しかし選手は、早くも来年に向けての活躍を誓いあっています。

なお、北五大と県大会の結果は次のとおりです。

- ▼北五大 決勝トーナメント
- 一回戦 市浦中 2-0 五四中
- 準決勝 市浦中 2-0 中里中
- 決勝 市浦中 2-0 小泊中

▼県大会

- 二回戦 市浦中 0-2 稲垣中



▲準優勝の成績を残した相内バレー部

- Bブロック
- 十三小 2-1 富范小
- 十三小 2-0 修道小
- 十三小は決勝リーグへ
- ※決勝リーグ
- 十三小 0-2 繁田小
- 十三小 0-2 稲垣西
- 相内小 2-0 富范小
- 相内小は決勝リーグへ
- ※決勝リーグ
- 相内小 0-2 稲垣西
- (相内小は準優勝)